

オムロン株式会社 2023年度1Q決算
投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）
（2023年7月27日）

<全社>

Q：上期で見たときに、営業利益の増加に向けてどのようなことが必要だと考えているのか。

A：2Q期間にトップラインをどれだけ積上げられるかがポイント。制御機器事業、電子部品事業は楽観視していないものの、成長機会は存在しており、その機会を獲得していくことが重要。また社会システム事業は、エネルギー事業が想定以上に売上が拡大しており、ヘルスケア事業も回復基調にある。グループとして売上成長を実現し、営業利益に繋げていく。

<制御機器事業>

Q：1Q期間の受注は、前期4Q期間と比較してどのような状況だったのか？今後の見通しも併せて教えてほしい。

A：前期4Q期間からはおおむね横ばいの状況。2Q期間も1Qからほぼ横ばいに推移するとみている。
当初は2Q期間から緩やかに回復していくことを想定していたが、3Q期間にずれ込んでいく見通し。

Q：中国エリアにおける投資需要は想定以上に弱かったのか？

A：半導体、二次電池の投資が想定より回復が遅れている。一方で、PV関連投資は想定より上回っており、4月から好調に推移している。需要に濃淡があるなか、中国は半導体・二次電池の割合が大きいため、総じて緩やかな受注状況となっている。

Q：営業利益率が11.1%は、過去の水準と比較すると弱い印象だが、その背景を教えてほしい。

A：GP率は前期1Qより改善している一方で、2Q以降の需要を掴むための成長投資（革新アプリへの投資、フロント強化等）を先行したこと、また単価増による人件費の上昇が影響している。

Q：社内の在庫の水準について、想定と比べてどのような状況か？

A：部品在庫のうち、特に半導体をどう戦略的に保有するかを考えなければならない。

下期以降、設備投資需要が立ち上がると見通す中、半導体部材をどう確保していくかを考慮し、現在の在庫水準を考えている。一見すると、足元の在庫水準は多く見えるが、将来へのストックのために持っていると理解いただきたい。

<ヘルスケア事業>

Q：ヘルスケアの今後の市況について、中長期の成長トレンドが戻ってきたと捉えていいか。

A：需要が回復基調にあるのは間違いないと見ている。

中国をはじめ、グローバルで医薬品や医療機器など必需品に近い領域の需要が戻ってきており、血圧計は再成長の基調に戻ってきている。